

北浦町立三川内中学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校は、1学年6名、2学年8名、3学年6名の計20名の小規模校である。山間部にあり、緑があふれ、ホタルが乱舞し、鮎が川底で踊る素晴らしい環境にある学校である。少人数の授業が常に行われており、個別指導のやりやすい環境にある。反面、町から離れているために通塾は困難である。そのため学校教育への保護者や地域の期待は高い。河川清掃や学校の奉仕活動・体育大会等の行事では、保護者の献身的な協力がみられる。



三川内中学校希望の坂

2 生徒の実態

生徒は明るく素直で、教師や地域の方々に対してあいさつがきちんとできている。鮎かけを得意とする生徒がいるなど、自然豊かな環境の中でのびのびと育っている。学校行事等にも全員が一丸となって取り組む。生徒の授業中の態度は真剣であり、発表も多く授業にも大変意欲的に取り組む。宿題など課題を提出しない生徒はほとんどいない。そのため、標準学力テストなどの結果は全国と比較するとかなり高い。生徒はニュースや世の中の出来事に対する関心が低く、3年生の進学に向けた面接指導では、質問にきちんとした受け答えができないことが多い。例えば、高齢者問題や環境問題など社会的な事象に関して説明できないのはもちろん、簡単な質問にもうまく答えることができない。厳しい見方をすると、読み書きの前の段階の話すことさえも不十分であるといえる。また、学年によっては漢字が書けない、計算が弱いなど学年特有の課題も見られる。

3 学力向上に向けた経営方針

(1) 全教科における基礎・基本の徹底

具体的には、わかる授業の構築を図り、授業の改善に常に心がける。学校独自の取り組みとして、質問教室・週末課題・個別指導を3本柱として推進している。

(2) 国語力の向上

本校では、「すべての学力の源は国語の力である。」との考え方に立ち授業を進める。生涯学習の観点からも、様々な本を読み、そこから得た情報を正しく判断し、利用する力が重要であるのはいうまでもない。そして、本を読み正しく判断するのは、国語の力である。したがって、中学生に必要な国語力を分析し、その力を身に付けさせることが全教科の理解につながると考える。逆に考えると、全教科で国語力を育成すれば、全教科の力も伸びるはずである。これを、今年度新たに取り組むことにした。

(3) 「親子の対話」の重要性の啓発

生徒達は、筋道を立てて説明したり、論理的に考える力が低下してきている。その背景には、親が仕事で忙しく帰りも遅いため、親子の対話不足があげられる。さらに、TVがお茶の間に入り、親子の対話が益々少なくなり、子供が親に今日あったことなどを筋道を立てて話すことも少なくなっている。一方、親が世の中の出来事などを、子供にわかりやすく話をするとも少ないようである。従って、親子の対話の重要性を啓発することが国語力の向上や、ひいては生きる力を身に付けることにつながると考える。

また、この親子の対話不足が子供たちのコミュニケーション能力の低下の背景の一つになっているのではないだろうか。そこで、子育ての初めの段階から継続して子供と対話し、ふれ合うことの重要性や大切さを広く地域の方々へ啓発できるように計画した。

(4) 読書の重要性の啓発

本を読み知識を獲得し有効に正しく活用することは、生きる力と生涯学習の観点からも非常に重要である。そこで、生徒の読書環境を整える必要がある。また、読書の習慣化という点では生徒だけでなく、保護者にも読書の重要性を啓発していく。

(5) 個別指導ための学力分析

生徒一人一人の学力を把握し、対策を立て実行するために学力分析を行う。同時に、生徒による授業評価も行い、授業改善に活用する。

4 教育課程内の取組

(1) 質問教室

本校では、朝8:00から8:10までと放課後16:05～16:25の合計30分間、質問教室という時間を設けている。10分で問題を解き、放課後に教師が解説を行うという補習的な時間を設けている。その中で、授業の復習や理解の困難な単元、繰り返し学習する必要のある内容を指導している。1・2年生は火水金の3回、3年生は火水木金の4回実施している。

(2) 週末課題

毎週金曜日には、各学年全教科課題を出すようにしている。内容は、プリント学習が中心である。月曜日に教師が採点を行い、学習の定着度を確認し、必要に応じて個別指導をしている。課題を忘れた生徒については、昼休みや放課後に取り組みせ、指導の徹底を図っている。

(3) 個別の学力分析

標準学力テストや実力テストの結果をもとにした生徒一人一人の学力分析と生徒による授業評価を年に2回実施し、職員研修で他教科と情報を交換し、授業改善や個別指導などに生かしている。

5 教育課程外の取組

(1) 朝の学習会

3年生は、朝7:30から8:10まで朝の学習会を設け、放課後の質問教室とセットで学習を進めている。3年間のまとめのテキストを使い、計画的に1・2年の復習を行っている。実施方法は、以下の流れで行っている。

I 早朝学習会 (7:30~8:10)

- ① 生徒は前日に、単元の要点をノートにまとめ、問題を解いてくる。
- ② 当日、単元の内容の解説を聞き、重要事項を確認する。
- ③ 問題の解答・解説の後、疑問点を質問する。

II 質問教室 (16:05~16:25)

- ① 朝の学習内容の類似問題を解く。
- ② 問題の解答・解説を受ける。
- ③ あまった時間は、予習等に当てる。
- ④ 必要に応じ個別指導を受ける。

(2) 資格取得への取組

本校では、英検や漢検の資格取得に積極的に取り組ませている。検定に向けての対策として、プリントによる課題等を与え、昼休み時間に解説やヒアリングなどを指導している。

(3) 授業研究

学校訪問以外に、全職員が教科の研究授業を実施し、授業力の向上に努めている。

(4) 夏休み質問教室

本年度も、基礎学力を向上させるため、夏季休業中3年生に11日間の学習会を計44時間実施した。1・2年の生徒には、必要に応じ個別指導を各教科で実施した。

6 保護者・家庭、地域との連携

(1) 親子の対話と読書の啓発活動

新入生の入学前の説明会と小中合同の家庭教育学級で、読書の重要性和親子の対話の大切さについて、プレゼンテーションによる講話を実施した。また、保育園で親子の対話の具体的な方法に関して講演会を行った。

保護者にできること 国語力

- ・ 親子で読書の時間を設ける。
 - ・ 保護者は趣味の本でも雑誌でもよいのです。
 - ・ 中学校に地域文庫があります。
 - ・ ぜひ親子できて本を読んで下さい。
 - ・ そして、子供の感想を聞き出しましょう。
 - ・ 本の内容を親子で考えましょう。
- ・ **親子の対話の中で心が育ちます。**

新入生説明会での啓発スライド例

学力向上といえば

- ・ TVを視聴する時間を減らしましょう。
- ・ 絵本などを子どもと一緒に読んで楽しみましょう。(デカレンジャーの本でもいいのです。)
- ・ 名前やひらがなを書く練習を親子でしておきましょう。
- ・ 本が読め、字が書けると学校生活にうまくなじめます。

保育園で啓発のスライド例

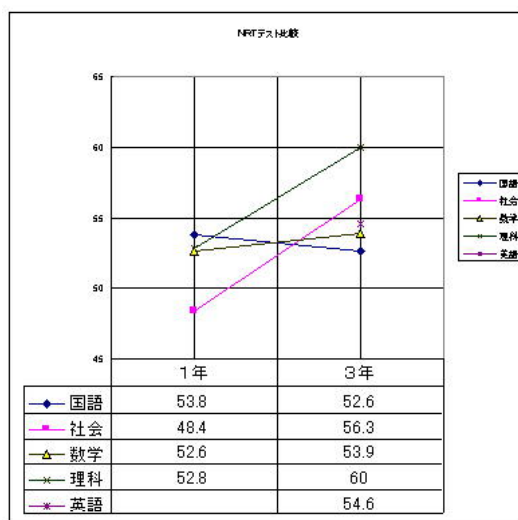
(2) 保護者による学校評価

保護者による学校評価を実施し、学校の教育活動の改善の参考とした。

7 成果と課題

(1) 標準学力検査の結果

3年生の入学時のNRTテストの結果と3年の4月時の結果を比較すると右のグラフのように、社会・理科・数学は、伸びている。英語に関して、全国平均を大きく上まわっている。学力向上への取り組みと生徒の努力の成果があらわれていると考える。国語の学力向上が課題である。



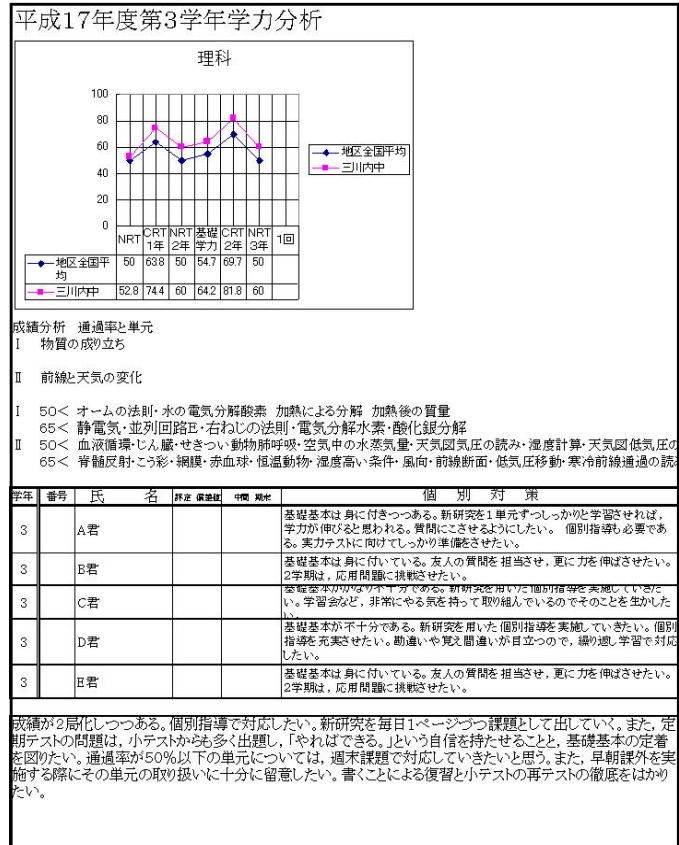
NRTテスト比較2年間推移

(2) 質問教室

毎日継続して、教科担当が指導を積み重ねることで、基礎基本の定着に成果が上がっている。個別指導の必要性ある生徒を見極めるのにも役だっている。今後は、個に応じた指導方法の工夫改善が必要である。

(3) 週末課題

毎週欠かさずプリントで復習させることで、学力が着実に伸びている。しかし、生徒の中には、分からないところを調べ考え、解答欄を埋めるという努力をしない生徒もいる。その結果、学力が2極化する傾向にある。そのような生徒にはねばり強く指導していく必要がある。教科の課題が重なり、生徒の負担が大きいきもあるため、量と質の関係を考える必要がある。



学力分析の例

(4) 個別の学力分析

教師が、授業を通して生徒一人ひとりを伸ばそうと意識をするようになった。今後は、より効果的な対策を見つけて出す必要がある。

(5) 読書の時間

生徒達は静かに集中して本を読んでいるが、週1回読書の時間では、効果は上がりにくい。いかに興味を持たせ、日常の読書の習慣を身につけさせるかが課題である。

(6) 保護者への読書啓発

保護者向けに図書室に地域文庫を設け、地域に利用を呼びかけている。地域文庫の本は充実しつつあるが、利用者が少ないのでさらに啓発していきたい。

(7) 今後の対策

国語力の向上を更にすすめることが重要な課題である。国語科の指導だけでなく、全教育活動を通して高めていく必要がある。本校では、研究主題に国語力の向上をあげ取り組み始めた。今後、先進校の活動も参考にしながら、すべての教育活動を通して研究を積み上げていきたい。

また、国語力低下の背景には、保護者の仕事が忙しいため、家庭内での会話不足や短い単語による会話があると考えられる。家庭へのさらなる啓発とこれから親になる中学生への意識付けがとても大切である。家族で学校や社会での出来事をいろいろな視点から話し合うことが、国語力をのばし、規範意識を高めることにつながると考える。